

『東日本大震災被災児童等調査 調査結果』について

県では、令和7年度に「東日本大震災被災児童等調査」を実施し、震災当時こどもだった方々へのインタビュー調査を行いました。この度、その調査結果がまとまりましたので、報道機関の皆様におかれましては、広く情報発信していただくようお願いいたします。

1. 調査の目的

今後の災害におけるこどもに対する支援策の検討等のため、震災当時こどもで、被災した方が当時どのように感じていたか、成長の過程でどんな影響があったかの記憶や、成長した現在の心の状況などについて調査したものです。

2. 調査対象者

被災当時こども（高校生まで）で、沿岸15市町で被災した方を対象とし、このうち12市町38人に調査を実施しました。

3. 調査方法等

(1) 調査方法

【対面】

- ・座談会及び個別インタビューの実施
- ・県内4会場、計5日間（令和7年11月、計26人）

【オンライン】

- ・個別インタビューの実施（令和7年12月、計12人）

(2) インタビュー項目（抜粋）

- ・震災直後に1番怖かったこと、困ったこと
- ・こどもとしての立場で、理解されなかったこと・伝えられなかったこと
- ・未来へ残したいメッセージ等（計10項目）

(3) 代表的なエピソード

- ・地震のとき近くに大人がいなかったため、訓練はしていても焦って「どこへ逃げるか」をすぐ判断できず、不安だった。
- ・大人に迷惑をかけたくない思いが強く、甘えたい、構ってほしい気持ちを周りに言えなかった。
- ・こどもは頼れる大人を遠慮せず頼っていい。安心して話せる環境をつくってほしい。

4. 公表資料

- (1) 調査結果報告書
- (2) インタビューサマリー
- (3) インタビュー詳録
- (4) 動画（インタビュー映像（1テーマ当たり約10分））

5. 公表場所

子ども・家庭支援課ホームページ

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kodomo/311hisaijidoutyousa.html>

6. 今後の対応

調査結果から得られたこどもの思いや気付きなどを、今後の県の施策に反映させていきます。

